裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真　井上
山行番	NO.2007
日　時	2022 年 12 月 30 日（金・晴）～31 日（土・晴）
山　域	金峰山（2599m・日本百名山）
12 月 30 日	長泉町 6:30－東名富士 IC にて加藤さんの車に乗り換え 7:00－中央道甲府南 IC－須玉 IC－瑞牆山荘横無料駐車場発 9:30－富士見平小屋－大日小屋－大日岩－昼食 13:17～13:20－千代ノ吹上－金峰山小屋と頂上の分岐 14:00－金峰山頂上 14:30－金峰山小屋 14:50－夕食 18:00－消灯 20:00
12 月 31 日	小屋出発 6:00－頂上日の出 6:45－下山開始 7:00－富士見平小屋で加藤さんと合流 9:00－駐車場着 9:53－富士 13:00－長泉 13:40
標高差	瑞牆山荘 1515m～金峰山 2599m＝約 1084m
藪漕度	上り・下り　なし
難易度	非常に困難　困難　やや困難　レ普通　やや易しい　易しい
美しい雪と岩と朝日、大盛カレーと３人の林さん	
参加者	加藤、井上＝2 名

当初は山田さんが参加し、冬山合宿初体験の予定だったが急用のため、加藤さんと二人となった。私は、金峰山は冬以外含めて初挑戦である。今回は頂上直下の金峰山小屋に泊まって 2 日間の登山をする。金峰山小屋に布団はあるが、利用者はシーツかシュラフカバーをもっていかなければいけない。

カバーは高いので購入をやめ、シュラフを持参することにした。夕食は小屋で予約（夕食付一泊 8500 円）し、1 日目の昼食と 2 日目の朝食と行動食、そして、ビールに水、ピッケル、アイゼンの冬装備で荷物は 17kg 以上となった。水分は、水 2ℓ、お湯 0.8ℓ、ビール 4 本 1.4ℓ（小屋では 1 本 500 円）、コーヒー、ジュース、甘いお茶で 1.2ℓと合計 5.4kg。結局、水は最後まで全く飲まなかった。

駐車場

瑞牆山

ちなみに、金峰山小屋は、通常 12 月 29 日から開けているが、今年は 30 日からに変えたそうだ。いつも、29 日に数人が予約するが、キャンセルになることが多く、せっかく前日から準備しても無駄になることが多いらしく、今年は変更したとのこと。

中学 3 年の男の子が父親とアルバイトに来ていた。この小屋は、1 年に一回、燃料の荷上げとし尿の荷下ろしでヘリを使うが一回数十万円かかるので、それ以外は全員が毎日歩荷しているので、この値段でできると言っていた。

瑞牆（みずがき）山荘までは南側の山道ではなく、北からの少し大回りだが道幅が広く、日が当たりやすい方の道路で行った。加藤さんの車のタイヤは新調したばかりでグリップがよく効くらしい。無料駐車場には 20 台くらい停まっているがまだ余裕がある。駐車場の一部は凍っていた。準備をして出発。樹林帯の穏やかな林を進む。稜線に出ると、目の前にいかつい瑞牆山がお目見えだ。

今までに見たことのないごつごつとした山肌にため息が出る。ここからアイゼンを装着。雪の下が凍っている。富士見平小屋、大日小屋を通過。大日岩の丸い大きな岩の塊にまた、感動のため息をつく。午後 1 時を過ぎ、あまりの空腹に我慢が出来ず、昼ご飯を提案。急いでカップラーメンを作って食べ、おなかが落ち着いた。

出した荷物を片づけている間に、待ってくれている加藤さんに先に行ってもらった。12/9 の富士吉田口の山行で膝を打った加藤さんは 3 週間たってまだ痛むのでゆっくり歩かざるを得ない。樹林帯ではシャクナゲの木が群生し、葉を丸めてしなだれているので、幽霊の

冬のシャクナゲ

手のようだ。花が咲く時期はきっとすごい。樹林帯を超えると、視界がいきなり開けた。金峰山頂上までの稜線が連なる。360 度の視界、富士山、北岳や甲斐駒、八ヶ岳が一望できる。千代ノ吹上の断崖絶壁を見下ろして恐怖し、そそり立つ岩と岩の間に見える雲海上の富士山に見惚れる。

頂上と金峰山小屋の分岐で加藤さんが待っていて、脚がかなり痛いので頂上にはいかず、

五丈岩

トラバースで小屋に向かうと言う。ここからも自分ひとりで頂上を目指した。五丈石を見上げて写真を撮る。五丈石を回り込んで東側に行く。こちらが正面で鳥居があった。ここでは女性 2 人が写真を撮っていた。その後、その東にある少しだけ岩肌を登ったところの頂上に到着。凍傷を心配し、最短時間で手袋を外し写真撮影。

　頂上から小屋に直接下る道は、足跡が少ないが、五丈石からはしっかり踏まれていると

金峰山山頂

聞き、五丈石前に一度戻ってから、小屋へ下った。小屋に着くと、加藤さんが他の登山客と炬燵に入っていた。二階の自分の寝場所に荷物を置き、持ってきた 4 本のビールを持って一階に下りる。炬燵は 2 個あり、他にテーブルが 2 個。同じ炬燵に入った私たち 2 人以外の 4 人と情報交換をする。

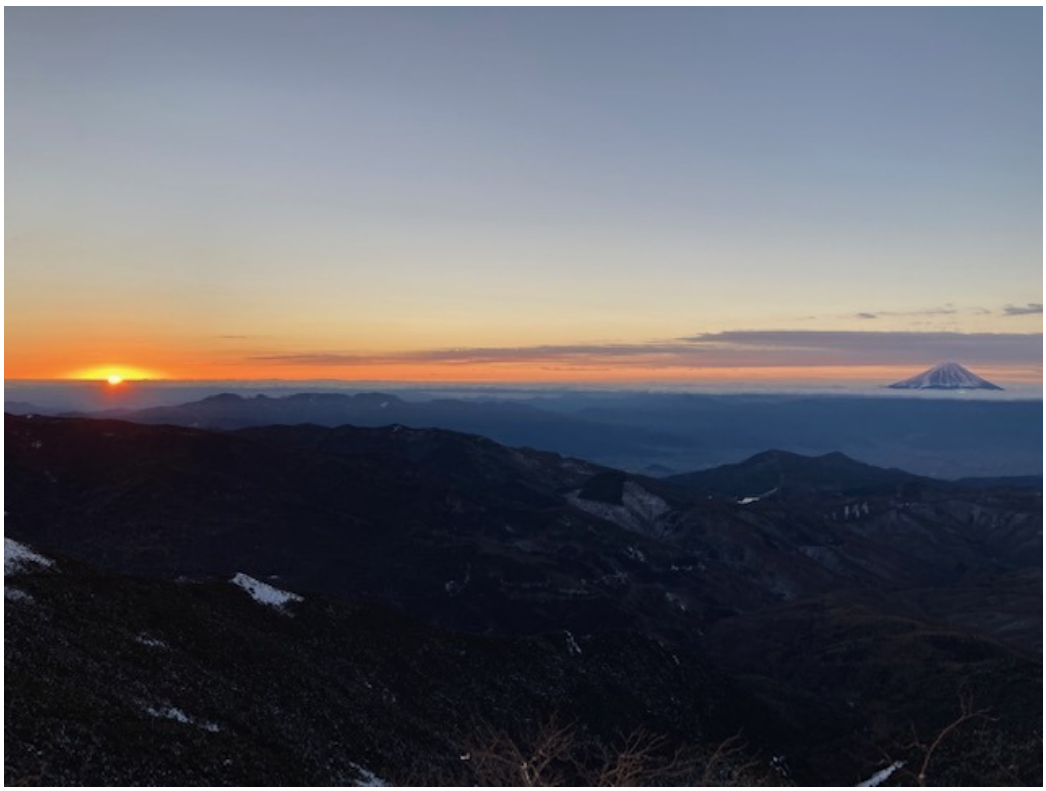
男性 4 人と女性 2 人だったが､私以外は 3 人が林さんだったことが判明し盛り上がった。それぞれ 37 歳（単独、松本出身、愛知県在住)、66 歳（単独、京都出身、山口県在住)、77 歳（山の会の 48 歳の女性と 2 人組。歳の差 29 歳。山口県出身、東京在住)。この炬燵では、私一人が酒を飲んでいた。夕食は申し込んだ順番に開始時刻がずれる。

私たちは１８時の最初の組だった。コンビーフの入ったカレーで皿にはサラダも載っていた。昼ごはんがカップラーメンだけだったこともあり、大盛のお代わりをした（お代わりは 1 回まで)。

20 時になって 2 階に上がり寝ることになった。布団の中のシュラフは暑く、また、酔いもすっかりさめて、眠れない。仕方がないのであきらめて朝を待った。

12 月 31 日、5 時ごろに周りの人の目覚ましが鳴り、5 時半起床としていたが、眠れなかったのでさっさと起きた。片付けや身支度をして、パンとジュースで朝ご飯とする。6 時には下に降りて、靴、スパッツ、アイゼンの装着。加藤さんは、小屋の階段の移動でも脚が痛いので頂上は行かず、同じ時刻に出発し下山することとした。

小屋の食事



6:45 夜明け

ヘッドランプの明かりで頂上を目指す。他の登山者は、ご来光を拝んだ後、小屋に戻り朝食をとるのでほとんどが空身で登っている。ビール 4 本分と食べた食料分軽くなったザックを背負い、急がなくてもよいのに必死に登った。この苦しさが達成感を生む。

2 人組を追い抜くと、頂上は私が一番乗りだった。おかげで誰よりも長い時間、風のある寒い頂上で日の出を待つことになった。6:45 が日の出の予定時刻。徐々に雲海の地平線が赤くなり、太陽の一部が顔を出すと心が揺さぶられた。

少し離れた富士山も健在。徐々に日が昇ると、周りの八ヶ岳や北岳・甲斐駒に日が差し始め、モルゲンロートショーが始まった。頂上が光り、徐々にその光が下に降りてくる。

ご来光

7:00、太陽が完全に雲海から姿を現したところで下山開始。他の登山客は、まだ余韻を味わって残っていた。道は夜のうちに足跡は消えていた。

ここでも一番乗りで歩いていることが気持ちいい。足跡のない雪を踏むのはなぜだか優越感に浸れる。歩を進めては周りの景色に見惚れて立ち止まり、なかなか先に進まない。風があるので、やはり凍傷を心配して手袋を外せず写真はあきらめた。樹林帯に入ると風が遮られ寒さから解放された。後は長いアップダウンを繰り返すのみ。

頂上を出て 2 時間後に富士見平小屋前のベンチで優雅に朝食をとっている加藤さんに追いついた。正面の富士山を眺め、軽く食事をとり、まったりしてから最後の下山。その後アイゼンを外したが、最後の最後でこけてしまった。油断禁物。想像して時刻より早く駐車場に到着。

パーフェクトな天気に恵まれ、何ともついていた 2 日間だった。このようなチャンスを与えてくださりありがとうございました。

その他の記述（後藤）

１．今回、会として負傷にも拘わらず、加藤さんに世話になった。井上君も良く頑張った。
２．山田さんは、全装備も揃え、意欲満々だったが、突然の不参加は残念だった。
３．年末年始登山は、９５年・金峰山（廻目平往復）から、２７年間続いていたが、今回で記録は途絶えた。記録が今回と同じ金峰山からだったのは、何かのご縁だったか。
４．今回気温の記録が無かったが、２０１１年１月１０日、小屋入口で－２０度だった。小屋は標高が高いので気温は下がる。廻目平のエルグランドの燃料（軽油）も凍ってしまい、始動時不調だった。

以上